

## 幻の門

まぼろしの門 ここを過ぎて  
 鰐陵の地に今ぞ立つ  
 幾千の旗ひらめけば  
 集う若人一千余

まぼろしのもん ここをすぎ て がくりようの ちに  
 いまぞたつ く ー せんのは た ひらー め け  
 ば つ ど う わ こ う ど い つ せん よ  
 ー そらとうみとをみはるかす ひより が お か  
 せきこう せきこう われらがせきこう せきこう お お せき こう

空と海とを見はるかす  
 日和ヶ丘 石高石高  
 われらが石高  
 石高 おお 石高

### 第一応援歌

郡司英太郎 作詞

一、荒潮たぎつ金華山  
 英雄の壮図月の浦  
 鍛えし錬りしくろがねの  
 力に躍るわが友よ

二、いざ戦の秋は来ぬ

石高健児のいさおしを  
 獅子奮迅の勢をもて  
 奮えよ起てよわが友よ

三、力戦奮闘かいありて

かざして帰るわが友の  
 永遠不壊のいさおしを  
 いざもろともに  
 たたえよ

### 第二応援歌

高橋久次郎 作詞

一、渺漠々のはるかなる  
 雄波おごりてわだつみの  
 魔神雄叫ぶ東海に  
 ゆらぐ坤軸ふみしめて  
 今ぞ起たんず若人の  
 胸の高鳴り人聞けや

二、生くる誇りと美と力

天恵の地に育くまれ  
 久遠の理想かかげんと  
 起つや若人あ健児  
 築く我等がいさおしは  
 天翔くる日と輝かん

### 第三応援歌

戸田開男 作詞

一、誉をかくる戦の  
 来る年々に血は燃えて  
 矢種つきなば肉弾と  
 見よや選手は今ぞ起つ

二、鋭しやスパイク

地を割かば  
 群小散じてかけひそめ  
 鉄腕ひとたび打ち振れば  
 蛟竜池中のものならず

三、若き生命の充ち満てば

不断の力湧き出ずれ  
 栄えあるほまれここに今  
 掲げん哉や秋到る

### 桐の葉

一、桐の葉は木に朽ちんより

秋来なば先駆け散らん  
 名のみなる虜虜を捨てて  
 醒めて起て男児ぞわれら

二、日の本の東北の地に

いと高き学舎ありと  
 人も知る北上の水  
 よし涸れよ濁さんよりは

### 鰐陵

今野優喜 作詞

金華霊山遠く見て  
 北上川の水清し  
 ここ鰐陵の原頭に  
 柏の章 蔽として  
 輝く下に集いたる  
 鰐陵健児の意気高し

### 勝の曲

金華の彼方夕映えて

北斗静かにまたたけば  
 血潮ぞ醸す美酒を  
 汲みて歌わん勝の曲  
 ああ石高の健男児  
 臥竜の夢は永かりき

### 戦わん哉

一、戦わん哉秋到る

ああ戦の秋到る  
 はだに血の湧く青春の  
 高鳴る胸をいかにせん  
 ああ戦いの秋到る  
 戦わん哉秋到る

二、血潮に染めし旗立てて

敵の牙城にせまりゆく  
 青雲暗く鐘は鳴る  
 風なまぐさく草に吹き  
 健児の胸は血に燃えて  
 戦わん哉秋到る  
 戦わん哉秋到る

### 壮行の歌(勝の曲)

暴風狂えば雪降れば

いよよ湧き立つ熱血の  
 成算胸にあふれては  
 白箭ひようと高鳴りて  
 ああ石高の健男児  
 青葉城下になだれ入る

